

NEXCO東日本グループのSDGsへの貢献と取組み

NEXCO東日本グループは、国際社会共通の目標であるSDGsと当社の事業とを照合して、事業を通じて貢献できる目標を抽出しました。

当社グループは全事業を通じてSDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」目標8「働きがいも経済成長も」目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」目標11「住み続けられるまちづくりを」に貢献していきます。各事業を通じて貢献する目標は表のとおりです。

また、全ての事業活動においてあらゆるステークホルダーとのパートナーシップ(目標17)を大切にしていきます。

中期経営計画 5つの基本方針	重点計画	重要な目標	中期経営計画(2017~2020年度) における取組み
安全・安心・快適・ 便利な高速道路 サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ●安全を最優先にお客さまが安心して利用できる高速道路サービスの提供 ・高速道路リニューアルプロジェクトの推進 ・SMH(スマートメンテナンスハイウェイ)の実現と資産健全性の確保 ・防災・減災の強化 ・交通事故の削減 ・車両制限令違反の抑制 ・雪氷対策の高度化 ●高速道路ネットワーク整備と高速道路を賢く使うための機能強化の着実な推進 ●お客さまのニーズを踏まえた快適で便利な高速道路サービスの展開 ・円滑な交通確保 ・経路選択などの情報提供充実(ETC2.0データの活用) ・効率的で利便性の高い料金サービスの展開 ・商業施設の新設・増改築・老朽化更新の計画的な実施 ・ガステーション営業体制の維持・強化、急速充電器の整備 ●安全を最優先に、品質・コスト・生産性を追求し、維持管理しやすい高速道路づくり 	老朽化対策・高速道路リニューアルプロジェクトの推進	高速道路リニューアルプロジェクトを推進し、橋梁を始め必要な構造物の大規模更新・大規模修繕の取組みを進めます。
		交通事故・渋滞の削減	交通安全対策を実施し、死傷事故率の削減に取り組めます。
		雪氷対策など気象条件への対応	付加車線事業などの渋滞対策を行い、渋滞による利用者の損失時間の削減に取り組めます。
		ネットワーク整備と機能強化	首都圏の高速道路ネットワークと、地方部のミッシングリンク解消に向けた整備を推進します。
地域社会への 貢献とインパ ウンド・環境保 全への対応	<ul style="list-style-type: none"> ●地域社会への貢献 ・観光振興・東日本大震災復興支援 ・地域と連携した高速道路整備 ・自治体などへの技術支援 ●インパウンド、東京2020オリンピック・パラリンピック対応 ●環境保全の推進 	社会課題解決への貢献	高速道路事業と親和性の高い分野(地域社会の活性化、交通安全の推進、環境保全)において、社会課題の解決に向けて取り組めます。
		環境保全	地球環境保全、循環型社会形成、沿道環境の保全の取組みを推進します。
社会に貢献する 技術開発の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●安全を最優先とした業務の高度化・省力化につながる技術開発(ICT、AI、IoT、ビッグデータなどの活用) ・SMHの実現、交通安全、雪氷対策の高度化のための技術開発 ・新たな車両技術の活用(自動運転技術の活用検討) ・NEXCO東日本 総合技術センターの整備・活用による技術開発の推進 	イノベーション	SMHを実現する技術開発として、点検の機械化、損傷の定量化に取り組めます。
関連事業の収益 力強化	<ul style="list-style-type: none"> ●経営資源の最適な活用により、お客さまサービスと企業価値を向上させるとともに、さらなる効率化により収益力を強化 《SA・PA事業》・SA・PAの魅力向上のための施策の実施 ・商業施設の効率的な運営 《その他事業》・展開している事業の収益力強化 ・未利用地の利活用 ・新たな事業の創造 ・海外事業の推進 	SA・PA事業などの収益力強化	SA・PAにおける商業施設を効率的に運営し、収益力を強化します。
		海外事業の展開	NEXCO東日本グループの保有する技術を海外に展開します。
グループ全体の 経営力強化	<ul style="list-style-type: none"> ●グループ経営の高度化の追求 ●内部統制、人材確保・育成、生産性向上など ・内部統制システムの一層の強化・充実 ・人材の確保・育成と「やりがい」「満足感」を実感できる環境づくりの推進 ・NEXCO東日本 総合技術センターの整備・活用による現場対応力などの向上 ・E-Shokubaづくり運動(健康経営の推進)・女性活躍推進 ・業務の最適化、生産性向上の推進 ・企業ブランドの向上 	CS(お客さま満足)	グループ一体となって、お客さまに安全・安心・快適・便利な道路空間を提供できるよう、走行快適性の向上や休憩施設の充実を図り、お客さまの満足度の向上を目指します。
		ガバナンス	内部統制システムの一層の強化・充実、リスクマネジメントおよびグループ一体となったコンプライアンスを推進します。
		働き方改革のより一層の推進	社員がいそいそと仕事をし、「やりがい」や「満足感」を実感できる環境づくりに取り組めます。

グループ経営理念

NEXCO東日本グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献します。

2018年度の主な取組み結果 (2019年3月31日現在)	2019年度末時点での到達目標	全事業に関連するSDGs	個別の取組みに関連するSDGs	関連ページ
修繕着手済橋梁数 312橋 <small>平成26年度から当該年度の前年度までに判定区分Ⅲ、Ⅳと診断された橋梁のうち、当該年度までに修繕(設計を含む)に着手した橋梁数※1※2</small>	引き続き、橋梁をはじめとする必要な構造物の更新・修繕を行います。			15
快適走行路面率 96% <small>快適に走行できる舗装路面の車線延長比率</small>	快適走行路面率 96%			22
死傷事故率 4.3件/億台キロ <small>自動車走行車両1億台キロあたりの死傷事故件数 (暦年値)</small>	死傷事故率 4.3件/億台キロ (暦年値)		7 気候変動に具体的な対策を	24
本線渋滞損失時間 791万台・時間 <small>渋滞が発生することによる利用者の年間損失時間 (暦年値)</small>	本線渋滞損失時間 781万台・時間 (暦年値)		10 人や動物の安全な移動を確保し、公共交通機関を充実させる	25
通行止時間 42時間 <small>雨、雪、事故、工事等に伴う年間の平均通行止め時間</small>	通行止時間 42時間		10 人や動物の安全な移動を確保し、公共交通機関を充実させる	27
新規開通延長 38.8km	新規開通延長 24.4km		13 気候変動に具体的な対策を	17
4車線化・付加車線の完成延長 26.2km <small>(暫定2車線区間における付加車線事業のみ)</small>	4車線化・付加車線の完成延長 18.9km <small>(暫定2車線区間における付加車線事業のみ)</small>		13 気候変動に具体的な対策を	40
新規JCT・IC 3カ所 新規スマートIC 8カ所 新規SA・PA 2カ所	新規JCT・IC 2カ所 新規スマートIC 4カ所 新規SA・PA 3カ所		13 気候変動に具体的な対策を	40
高速道路事業を活かしたCSR活動に取り組み、統合レポートおよびCSR BOOKを発行し、当社グループの事業活動とCSRについてわかりやすくお伝えしました。	高速道路事業を活かしたCSR活動(地域社会の活性化、交通安全の推進、環境保全)を継続し、ステークホルダーにわかりやすく発信します。	3 すべての人に健康と福祉を	7 気候変動に具体的な対策を	63
CO ₂ の削減にも資する後志道、東北中央道の整備を進め、トンネル照明の省エネ化を図りました。また、ecoインター [®] 、ecoエリア [®] を12カ所整備し遮音壁を約15km設置しました。	高速道路ネットワーク整備、渋滞対策、省エネタイプの機器の導入、のり面樹林形成等、CO ₂ 削減による地球温暖化抑制対策を推進し、廃棄物排出量の削減およびリサイクルの推進、騒音対策等、沿道の生活および自然環境の保全に取り組めます。	8 働きがいも経済成長も	7 気候変動に具体的な対策を	18
モバイルPCを活用した点検支援システムを試行導入しました。	レーザースキャナーによる舗装の点検などの技術開発を進めます。	9 産業と経済発展の推進を図るための技術革新を促す	12 持続可能な消費の推進	20
暫定2車線の中小橋区間における正面衝突事故防止対策を開発しました。	暫定2車線の長大橋・トンネル区間における正面衝突事故防止対策などの技術開発を進めます。		12 持続可能な消費の推進	22
準天頂衛星システムを活用したロータリー除雪車の運転支援技術、除雪トラックの集約制御システムを試行導入しました。	AIを活用した作業判断支援システムなどの技術開発を進めます。		12 持続可能な消費の推進	49
SA・PAの年間店舗売上高(飲食・物販) 974億円	SA・PAの年間店舗売上高(飲食・物販) 985億円		11 住み続けられるまちづくりを	16
インド道路事業へ本格参入し、5路線への出資が完了しました。	インドにおける出資路線で現地の技術者に対し技術的指導を展開します。		11 住み続けられるまちづくりを	24
日々寄せられるお客さまの声を維持管理業務に反映し、安全快適性・走行信頼性・休憩施設のトイレ改修など、お客さま満足度の向上を進めました。	快適な路面を保つための舗装補修、渋滞対策、交通安全対策を進めます。		13 気候変動に具体的な対策を	27
内部統制に関する各委員会の審議や活動状況などを踏まえ、内部統制委員会において、内部統制システムに関する基本方針の運用状況について確認を行いました。	内部統制委員会において、内部統制システムおよび運用状況の確認を実施します。	17 パートナーシップで目標を達成しよう	7 気候変動に具体的な対策を	32
改正労働基準法など(時間外労働の年間720時間の上限規制、年休5日間の取得義務化など)に適切に対応するため制度改正などを実施しました。	働き方改革実現に向けた経営層のメッセージを発信し、社員の意識改革など、全社的な取組みを進めます。		7 気候変動に具体的な対策を	38
			10 人や動物の安全な移動を確保し、公共交通機関を充実させる	51
			4 質の高い教育をみんなに	22
			10 人や動物の安全な移動を確保し、公共交通機関を充実させる	62
			5 ジェンダー平等を推進する	57
			16 平和と公正な社会を築く	54

※1 平成26年7月より施行されたトンネル等の健全性の診断結果の分類に関する告示(平成26年国土交通省告示第426号)に基づき橋梁毎に総合的に健全性が診断された橋梁。
※2 修繕(設計を含む)に着手または完了したものを。

社会課題への貢献 持続的な企業価値の向上